

高効率遠隔監視を実現

福島県南会津町「水神」導入でコスト抑制

南会津町は、福島県会津地方の南部に位置する。東京方面への電車の始発点であり、県西部の玄関口ともなる町だ。水道施設は広い町内に点在、施設間が離れており、特に冬季の巡回が困難。監視システムも老朽化し更新が急務となっていたにもかかわらず費用面から実現していなかったが、昨年9月、思い切った小規模水道に適した施設管理システムを導入、難題が一挙に解決したという。

1周100キロのループに施設が点在
南会津町は平成18年3月、田島町、館岩村、伊南村、南郷村の1町3村が合併して誕生した。約887平方キロの町域は阿賀川水系と伊南川水系の二つにまたがり、ここに上水(田島上水)と17箇所(田部・長野、水無、栗生沢、荒海、糸沢、滝原、静川、針生、中部上郷、宮里、下郷、伊南、大桃、内川・恥風、南郷、東)が点在している。

各集落は、国道でルー
プ状に結ばれているが、そのループは1周約80キロ。国道からさらに奥に入らなければならない集落があるため、各閉水を巡回する道のりは100数十キロにも及ぶ。また、広大な町域を数人の職員で受け持っているため、目視だけで施設を管理することは非常に難しい状況にある。

町3村の時から、施設管理に遠隔監視システムを用いてきた。しかし、導入後かなりの年月が経っており、監視用のコンピュータやOSが旧式化。記録にはパンチカードも使われており、その用紙代に1力所当たり年間5〜10万円、トータルで30万円程度掛かっているという。

しかし、新しいシステムの導入には高額の費用がかかるため、町ではその導入に二足を踏んできた。それでもシステム

の更新をあきらめきれず、「あるコンサルタン」に「何かよい方法はないか」と尋ねたところ、クラウドコンピューティングを活用してコストを

低減させた管理システム「やくも水神」の存在を教えてもらった。同町ではこれら「水神」の特徴を検討してきた結果、使用しているパソコンが陳腐化してきてお

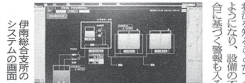
り、専用費用も膨んでいる伊南総合支所の監視システムへの導入を決めた。昨年9月からシステムの本格稼働を始めた。

従来のシステムでは、庁舎に備え付けのシステム端末でしか施設の状態を知ることができなかったが、「水神」に移行してからは、どこにいてもスマートフォンで施設の状況を知らることができる

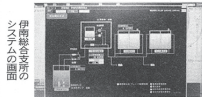
ようになった。データに関する「記録紙のデータ」を捨てる傾向を出すことは困難だが、「水神」では例えば、正月やお盆といったような特定の状況を選んで簡単に傾向を出すことができる。ように

「水神」の感想について星主査は「小規模水道にとって非常に取っつきやすいシステム。費用面からあきらめていた未来型監視システムが実現した」と高く評価している。今後、施設管理を民間委託した場合も「定期巡回

回ではなく警報巡回として発注できることから、費用も抑えられるのではなかろうかと思込んでいる。火災の現場でも活躍



スマートフォンでの操作



伊南総合支所のシステムの画面



パソコン上での操作



星主査



馬場係長

同閉水は1日最大給水量が120立方メートルと小規模で、消火栓使用時にはその使用水量がポンプ送

火災が鎮火に向かってい

環境水道課の星主査は「水神」との出会いを振り返る。

「水神」は、中央監視装置や専用回線が必要とせず、インターネット回線や携帯通信網を介し、既存のパソコンやスマートフォン、タブレットを用いた施設管理を可能とする。既設の制御盤がある場合は短時間で導入、組み込みが可能だ。

同町ではこれら「水神」の特徴を検討してきた結果、使用しているパソコンが陳腐化してきており、専用費用も膨んで

いた。データに関する「記録紙のデータ」を捨てる傾向を出すことは困難だが、「水神」では例えば、正月やお盆といったような特定の状況を選んで簡単に傾向を出すことができる。ように

「水神」の感想について星主査は「小規模水道にとって非常に取っつきやすいシステム。費用面からあきらめていた未来型監視システムが実現した」と高く評価している。今後、施設管理を民間委託した場合も「定期巡回

回ではなく警報巡回として発注できることから、費用も抑えられるのではなかろうかと思込んでいる。火災の現場でも活躍

回ではなく警報巡回として発注できることから、費用も抑えられるのではなかろうかと思込んでいる。